

キャリア教育、キャリア発達の視点  
全校研究テーマ  
サブテーマ

ひとりひとり個性のある子どもたちが 将来社会の中で 自立的に生きていくための力  
「自分らしく 人とともに 今を生きる力を」  
～ それぞれのステージごとに 育てたい力を 授業を通して考える ～

教育課程 「自立と社会参加」  
H7年の全校研究テーマ  
「社会参加と自立」とのかかわり

キャリア教育プロジェクト会議の理念・方向性

### ① 「自分らしく生きる力」

障害があっても 自分らしく自立に向かう

- 本人の願いを大切に、主体的に
- 障害があっても「より自分らしく」学習でき、「できる力」を伸ばす。
- 社会自立、職業自立 ～ 誰もが生まれながらに持っている人間としての普遍的な成長・発達の可能性
- その人らしく生きる ～ 障害があっても、ひとり一人がかげがえのない人生をより豊かに生きる

- 分かり(意味理解、見通し)できる授業
- 楽しく、意欲的に学習できる授業
- 本人の「～したい」(意欲)という願い
- 自己理解、障害理解の学習
- 自分で考え選択して決める学習
- 信頼関係を結び思いや内面を読み取る

### ② 「人とともに生きる力」

先生、友だち、地域の人々と  
いっしょに学習したり生活する

- 自立とは社会的な依存を広げ、強めること。
- 自立の力を育てるには周りの人からの支援を受け入れる力が必要
- 卒業後は周りの人との関係が大切
- 地域の人々や仲間とともに生きる力

- すきな先生、すきな友だち
- 援助を受け入れる
- いっしょにする、協力する
- さまざまな手だてで人間関係を広げる → 合同学習、集団活動
- 先生や友だちを支えに
- 地域の人や仲間と生きるなど

### ③ 「今を大切に生きる力」

今の学習課題、生活課題を大切に

- 「今」の授業を切り口に、子どもたちの全体の様子や中心的な課題を話し合うことが大切。
- ひとり一人の児童生徒の「今」の実態から「自分らしい」自立の力(学習目標)を考える
- 将来を見越して「できる力」を増やす授業を立案するだけではなく、「今の学習課題」から「分かってできる」、「楽しく(意欲的に)できる」という授業の積み重ねが将来の力、向日葵の「キャリアプランニングマトリックス」となる。

- 「進路先が求める力」で子どもを追い込むのではなく、「今を生きる力」の積み重ねが結果的に将来の力になる。
- 保護者の思いとのギャップ → ホントのねがい
- 今の本人の課題に見合う授業 → 学校だからできること
- 今、チャレンジして、努力してできるようになる
- 生徒の自己選択・決定、希望・ねがいが生きる進路先

- ベテランと若い世代の教員が学習目標や展開、子どもたちに合った教材などを考え合い、一緒につくる日々の「授業」が実践研究の中心。
- この研究の中で、教育課程全体や校務組織のこと、保護者や地域との関わりなど、学校や教育の全体像にもかかわる内容も考え合いたい。

渡辺三枝子氏講義

■ ともすると学校は「できる・できない」と評価される場になってしまうことがあります。でも、本当は学校は知識だけでなく社会性を学ぶ場なのです。特に日本の教育で忘れられてきた社会性や情緒性を育てるという点では授業・教育実践で何が育ったのかを体系的に明らかにする必要があります。

■ 他者というからこそ生きられる、自分とは違う他者がいるから自分が理解でき、自分らしく生きられる、みんな違うけれども助け合うことができるということがとても重要になるのではないのでしょうか。

■ 「キャリア」という言葉をいまだに残していることで良いのかなと思うことは、「ふりかえる」という人間独自の行動が教育にはとても大切なことだと思うからです。何を教えるかということより、一人ひとりの子どもがその授業をどのように取り組んでいるのか、授業の継続性を意識しているかどうか、経験をつないで新たな学びに意欲的に取り組んでいるのかなどということを考えて欲しいと思います。

教育実践の観点

#### 研究部「テーマにもとづく授業研究会」

- テーマの意味をみんなが理解し、「つけたい力」を整理する。
- 「育てたい力」をどう理解し、指導するか。どんな教育課程か。
- 子どもたちの変容を授業・実践報告で検証する。
- 研究は、みんなで実践を検討する実践検討会の形態で行う。

#### 進路部「卒業生の姿や進路先から学ぶ」

- 生活介護(あらぐさ) ～ 社会で生きるための土台になるのは、学校での人との信頼関係、良い人間関係、良いコミュニケーション、楽しい経験を積み上げる
  - 一般企業(松栄堂) ～ あてにされる喜び、コミュニケーション能力、実行力、粘り強さ、社会人としてのルール。技術的なことではなく、一生懸命さが大切。
  - 就労継続B(ひまわり園ワーク) ～ 社会性やコミュニケーション能力、集団の中で力を発揮できたり、調整してやっていく力が大切。
- 体験実習や進路実習の実践で「ねがい」が生きる進路先へ (自己選択・自己決定)

学部・寄宿舎での授業・実践研究

#### 小学部

「すきなこと  
すきな人をつくり広げ  
自分の思いが出せる子に」

- からだの力 ～ 生理的基盤を整える。(生活・学習の基盤)、身体や五感に働きかけ、心を揺さぶる生活を身体・運動機能や能力の維持・向上。
- コミュニケーション ～ 表出・発信、受信、やりとり大きな制約があり、何を表現し、伝えようとしているのかを読み取り、意味づける。適切な形で拒否を伝える力。
- 人への信頼感 ～ 友だち、先生、学校大好きと思える生活を・ありのままを受け止めてもらっているという安心感、楽しい活動、興味ある活動、手応えのある活動で良い感覚や実感を共感する。
- その他 ～ 興味関心を広げる、主体性を培う、社会性を育てる、思いの表出と自己決定の力

#### 中学部

「実践を通して中学部時代に  
育てたい力について研究を進める」

- 生活や活動を支えるからだや手指の力 (健康・生活リズムの確立)
- 相手を感じる力、相手に合わせる力、人と結ぶ力、自分の思いを伝える力、困ったとき援助を求める力
- 安心安定の関係をもとに、人や物に向かう力
- 様々な集団のなかで活動できる力
- 学力、分かってできる力 (認知)
- 変化や結果をイメージする力、期待する力
- してきたことをふり返り、修正する力
- 自分で考え行動する力 (自己コントロールの力)

#### 高等部

「卒業後の豊かな生活につながる  
高等部の教育実践を考える」

- 基本的な生活習慣の確立、体力・持続力を養う。
- 行事や自治、「チームの活動」を通して、仲間集団の中で豊かな人間関係やコミュニケーションの力を育てる。
- 社会性(協調性・挨拶・言葉遣い・マナー・ルール、身だしなみなど)を身につける。
- 生活に困らない基礎学力をつける。
- 自分の好きなもの・ことがあり、自分らしい余暇活動ができる。
- 就労に向けてつけたい力だけでなく、その土台となる生きる力をつける。

#### 寄宿舎部「仲間とともに豊かな生活をつくる」

- なかまのなかで自分らしさがふくらむ生活を大切に
- なかまとともに生活の喜びを大切に
- 人と支え合いながら生活を主体的につくることを大切に
- 発達に必要なあたりまえの生活を大切に

#### 自立活動(運動機能・言語・療育)

運動機能、言語、療育の3パートの専門性を生かし、学部の枠を超えて12年間のタイムスパンで児童生徒の成長・変化を捉え、クラス担任と連携して指導を行う。

#### 個別の教育支援計画・個別の指導計画

- 障害者権利条約の趣旨を生かし、本人や保護者の「思い」や「ねがい」がしっかり表明され、教育、福祉、卒業先に活用できる「支援計画」を目指す。
- 向日葵12年間の学部・学校の実践(教育課程)の一貫性、系統性(接続) → 12年間をつなぎステージ間、学部間の引き継ぎの課題を明確にする。
- それぞれのステージで児童・生徒の「思い、願い」を育てる ～ 「こんなことがしたい」、「こうなりたい(あこがれの先輩)」など

向日葵12年間のつながり